

▶ 特集 ・ 自信を高めるための「4つの教室」って
どんなことしているの?に答えます!
・ 授業で使う! 電子黒板 活用事例集

書くことをめぐって

人権・同和教育課 原 健次郎

私は、ワープロを使うようになって、文を書くことへの抵抗が少なくなった。

事務的な書類ならば、比較的短時間で済ませられるようになった。しかし、このような原稿を書くとなると、何ともいえない緊張感に包まれ、筆が思うようにすすまない。メール世代の人には笑われるかもしれないが、私たちの世代は、ものを書くときは、机の上を整理し、鉛筆を削り、辞書を用意し、下書きをしたうえで、お気に入りの万年筆などで清書をしたものだ。まさに、気持ちをおため、居住まいを正して文を書いた。

書くときには、ふだん使っていることばではなく、よそゆきのことばを使わなくてはならない。なおかつ、よそゆきのことばで自分の考えなどを相手にわかるように伝えなければならぬ。うまく伝えられるのかといったためらいやもどかしさが、書くときにはつきまとう。

書く作業は、人を話しことばから書きことばへと追いやる。このことは、人を日常的な世界から非日常的世界へ追いやることである。非日常的世界に追

いやられた抵抗感が書く作業をむづかしくしている。

書かれた文には書いた人の理解力がそのまま反映される。書いた人の理解が深ければ深いほど、わかりやすいことばで、やさしく表現できる。だから、文を読めば、書いた人の理解の程度がわかる。やたらむづかしい言い回しや横文字が多い文を読むと、この人はほんとうに解っているのだろうかと思配になる。

学生時代の伝説がある。『娘が「お父さん、今日国語の時間に小林秀雄という人の作品を勉強したけど、わたし何が書いてあるかさっぱりわからなかった。」すると、父が「心配するな。書いた本人もわかっていないのだから」と父とは小林秀雄) なかなか興味深い話である。

短文であれ長文であれ、内容が素朴な心情であれ、むづかしい理論であれ、文は書いた人の考え方や感じ方を映し出す。いやおうなしに文はその人を現すこととなる。そのため、書き手は自分をさらけ出す嫌悪感と向かい合わなくてはならない。ときにこのことが筆をにぶら

せる。しかし、やっかいなのは、他人の評価を気にして「うまく書こう」などと変に意識することである。こうした心理が働くのは、恥をかきたくないという意識によるものだと思配。

会議に同じことがいえる。会議が好きな人は少ないだろう。なぜなら、大勢の人の目にさらされるし、あらたまったことば遣いを要求されるからである。そして、自分の話が相手に伝わることが、ここでも心配の種となる。それだけでなく、会議では質問や反論が出る。それに対してうまく答えなくてはという思いが、さらに緊張感を高めていく。そのうえ、会議中の受け答えに対する他人の評価がこれまた気にかかる。かくして会議が終了しても、落ち着かない時間が続く。

ものを書く作業も会議での発言も、大きく見れば人間関係の一部である。この人間関係を窮屈にし、自分の心に重荷をかけているのは「人前で恥をかかないために、自分を飾ろう」という気持ちであった。俗にいう「いいかっこ」をしたいためである。大事なことは、自分を繕うのではなく、素直な気持ちを出すことではないだろうか。

教育支援課 特別支援教育・相談グループから

自信を高めるための「4つの教室🍀」って どんなことをしているの？に答えます！

4歳児(年中)から8歳児(小2)の「ことば」や「集団活動・友だちづきあい」,
「読み・書き・計算等」につまずいている子ども及びその保護者が対象です。



幼児ことばの教室

(「ことばをやりとりする力」「正しい発音で話す力」
思いをことばで話す・相手にきちんと伝えるなど「話しことばの力」を身につけます。)

教室の一例 ~ 個に応じたプログラムで指導を行います ~



ことばの基礎トレーニング

ピン球に息を吹きかけることで、吐く
息の強化をねらいます。



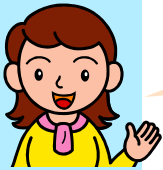
個に応じたトレーニング

ことばの音の数と発音が結びつくように、
一音ずつ丁寧に発音します。



遊びの活動の中でのトレーニング

楽しいゲーム活動の中で、指導員と対
話をし、語いを増やします。また、ルー
ルを守るなどのソーシャルスキルの獲得も
ねらっています。



指導員

就学前の幼児が、楽しんで来ることができるような雰囲気作りを心がけています。指導員のことば
に注意を向け、聞こうとする態度を伸ばし、ことばのやりとりを楽しめるようにしていきたいです。



まなびの教室

(聞く・読む・話す・書く・計算する・推論する といった学習に必要な基礎的な力
を身につけます。)

教室の一例 ~ 個に応じたプログラムで指導を行います ~



まなびの基礎トレーニング

一点を集中して見ることや手先の運動・
体全体を使った運動を通して、学習への
集中力を高めます。



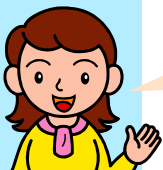
個に応じたトレーニング

二つの絵を見比べて間違い探しをし、見
つけたことを書き表します。形や文字を見
分ける力をつけることをねらいます。



フィードバック

指導員とともに、その日の学習について振
り返ることで、自信を高め、次回の活動に
つなげています。



指導員

一人一人異なる課題を持って、不安げな様子でやってくる子どもたち。頑張りほめて認め
ることで、帰りには笑顔になって「またね。」と言って帰ってほしい・・・そんな願いを持ちながら、
子どもたちと向き合っています。



ともだちづくり教室

(友だちとのかかわり方・気持ちの切り替え方・ルールの守り方などを身につけます。)

教室の一例 ～ソーシャルスキルを身につけるためのプログラム(全6回)で指導を行います～



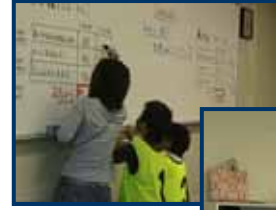
学習タイム

ロールプレイを見たり、実際に体験したりしながら、ソーシャルスキルを学びます。



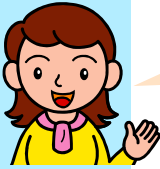
遊びタイム

感覚統合の考え方を取り入れた遊びの中で、学んだスキルを実践します。



フィードバック

遊びタイムでの評価をスタッフと一緒にに行います。最後には、スタッフから子ども一人ひとりに対して、よかったこと・頑張ったことのメッセージが送られます。



指導員

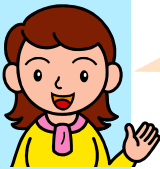
子どもが頑張っている姿や頑張ろうとしている姿を見つけて、ほめることを大切にしています。また、教室で学んだスキルを家庭や園・学校で実践し、身につけていくことが大切なので、保護者や担任と連携しながら進めていきます。



子どもの見方・ほめ方教室

(子どもの行動分析・望ましくない行動への対応方法・従いやすい指示の出し方などを学びます。)

【保護者対象】



指導員

親としては、子どもの好ましくない行動に対し、感情的になりがちです。そのことが、悪循環を起こし、親子関係を悪くしている場合が多く見られます。そのために、子どもの行動を落ちついて見ること・ほめて望ましい行動を増やしていくことを練習し、安定した親子関係を築いていくことを目指します。



保護者や担任から寄せられた声



担任

子どもの特性やかかわり方がわかり、子どもを落ち着いて見ることができるようになりました。子どもの良いところに目を向けられるようになったと実感しています。

教室に通うようになって、小学校の担任の先生に、1学期より落ち着いたと言われた時はうれしかったです。

できないことをしかるより、できたことをほめてやれるようになりました。子どもの笑顔が増えました。



保護者

教育支援課 研修・研究グループから

ICTを活用した「わかる授業づくり」 授業で使う！電子黒板 活用事例集

電子黒板は書画カメラ(実物投影機)で取り込んだ画像や、デジタル教材、動画などを大きく映し出します。
今回は、書画カメラ(実物投影機)、セットトップボックス(STB)、電子黒板の活用例をご紹介します。

その1 書画カメラ(実物投影機)で映す



書画カメラ
(実物投影機)

活用例 ～ 資料等を見せる ～



見せたい部分を電子黒板に大きく映すことで、「今どこを示しているのか」「どこを見せたいのか」ははっきりと示すことができます。

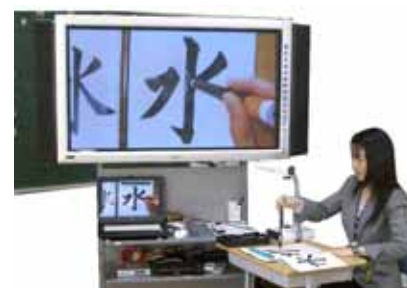
これまで資料を拡大コピーして黒板に貼り付けていた大変な作業は、この書画カメラで解決できます。



活用例 ～ 手元の動きを見せる ～



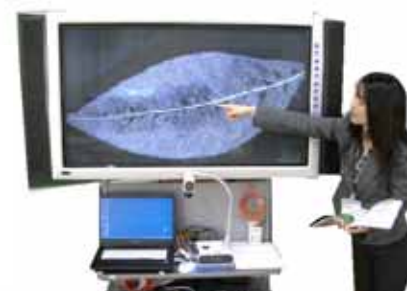
毛筆の筆づかいや家庭科の裁縫などの手元の動きを一斉に見せることができます。子どもたちを前に集めることなく、子どもたちの顔を見ながら、実習の手本を示すことができます。



活用例 ～ 写真に残し再生する ～



活用 で映した画面をSDカードに保存し、再生することができます。撮りためた画像を再度見せることで、前時の振り返りや次の学習に活用できます。



その2

デジタル教材を映す



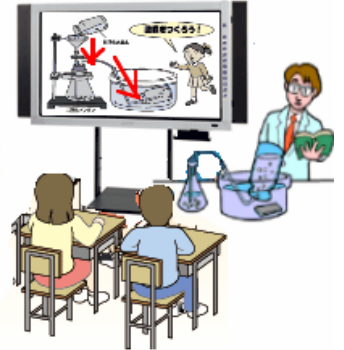
ノート型
パソコン

活用例 ～インターネット上の資料を見せる～



授業中に、「 って、どんな所？」という疑問が出たとき、言葉で説明してもなかなかピンときません。インターネットを使えば、衛星画像、地図、地形、建物、町並み等を映し出すことができます。

疑問に思ったことを映像で見せることにより、子どもたちの興味や関心を高めることができます。



活用例 ～デジタル教科書・デジタル掛図等を見せる～



国語や英語のデジタル教科書は、教科書を忠実に再現した画面なので、スムーズに学習を進めることができます。また、デジタル掛図などの多くの資料や動画のコンテンツも用意されているので、子どもたちの思考や理解をより深めることができます。



その3

動画や写真を映す



セットトップ
ボックス
(STB)

活用例 ～地デジ番組(録画)、ビデオカメラ映像、写真を見せる～



職員室にある動画配信サーバに教材となるビデオや写真、テレビ番組を保存・録画しておけば、見たい時、見たい場所で、セットトップボックス(STB)をLANにつないで映像を映し出すことができます。



電子黒板の四大機能

1 操作



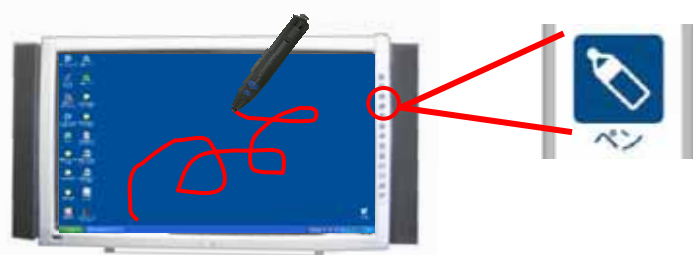
電子黒板の画面上でパソコンを直接操作できます。ダブルクリック、ドラッグも専用ペンで操作。授業の効率化につながります。



2 書き込み



電子黒板に映し出された、デジタル教科書や写真等に直接書き込みができます。大切なポイントを明確に伝えることができます。



3 拡大

見えにくい部分を大きく見えるように拡大することができます。授業にアクセントをつけ、子どもたちの注目度を高めることができます。



4 保存

書き込んだ後の画面を保存することができます。前回の授業の復習や子どもの考えを比較するときに便利です。



▶ 一人一冊マニュアル!

ICT をより便利に使えるように、電子黒板の活用をはじめ、電子黒板のボタン操作や書画カメラ（実物投影机）、プロジェクタなどのマニュアルを配付します。

電子黒板活用マニュアル(教職員一人一冊)

「電子黒板を使ってみよう」

電子黒板簡単ボタン操作(電子黒板1台に1枚)

電子黒板準備マニュアル(電子黒板1台に1枚)

「パソコン編・書画カメラ編」

プロジェクタ活用マニュアル(教職員一人一冊)

「プロジェクタを使ってみよう」

